

大六野明治大学学長と新田富山県知事との対談

要約

7月1日（土）明治大学校友会富山県支部令和5年度総会に出席・講演するために来県した大六野耕作明治大学学長は、それに先立ち新田八朗富山県知事と対談いただきました。

お二人はともに学生時代はラグビー部に所属し、ポジションも同じスクラムの要であるプロップということが判明。知事からは県政運営でも県内15市町村の首長をラグビーのフィフティーンと重ね合わせて「ワンチーム」の合言葉を前面に頑張っていることを紹介すると、学長からも本県出身でラグビー部OBの故村松映洋氏との思い出話など、ラグビー談義に花が咲きました。

学生への的確な情報提供と連携強化について

特に話の核心部分としては、2018年に富山県と明治大学が締結した「就職協定」についての検証や課題の確認と、富山県と明治大学の連携強化について、でした。

知事からは協定締結は前任の知事と学長によるものでしたが、引き続き継続する方針を確認するとともに、大学生のニーズに合った就職情報を適格に提供する必要性を挙げました。

学長からは、明治大学創立150周年（2031年）までのいくつかある数値目標のひとつに「地方学生の構成を40%にまで増やすこと」を挙げ、少子化が進行するなか、東京の私立大学の責任として一人ひとりの個を強くし、地元に戻っても活躍できる人材とそのための環境をつくることを強調しました。

また、大学の持っている研究機能、知見を地域の発展に役立てることの重要性を指摘するなかで、特に農学部での日本の農業の働き方を変える「食品工場」の技術・ノウハウの蓄積や生命科学科でのIPS細胞の研究を紹介しました。そのうえで社会的実証のために現場と地元企業と結びつけることの必要性を強調、稲作中心の富山県の農業改革に貢献できるのではと提案しました。

スタンドアップ支援事業とウェルビーイング達成に向けて

また、「出入りの活性化」を成長戦略の柱としている知事から、「卒業・就職を機に県外へ流出する数は女性が男性の4倍多いというデータがあるが、学生だけでなく30代以降の女性を中心に富山に帰る決断をサポートできる施策も必要」と述べたことについて、学長からは、転職・再就職・起業に向けてのスタンドアップ支援は経営学部を中心にそのための研究者・人材が集まってきていることを紹介し、明治大学でも協力できるのではないかと提案しました。

さらに知事は5月にG7教育相会議が富山と金沢で開催されたことに触れ、コロナ禍で子供たちの学びの環境が大変だったことから、子供たちの将来のウェルビーイング達成のためにも教師の確保・拡充とITなどの活用を通じての教師の作業量の軽減が必要との考えを示しました。また、親だけでなく中学・高校生への企業情報の提供や子供たちが経営者と触れ合う場も作っていくことを検討しているとしました。

学長からは、「コロナ禍で教育面で学んだことは、オンラインでできること、オンラインでしかできないこと、オンラインならもっとできること。これをうまく使って学生の教育と研究に生かしたい」と述べるとともに、「学びの場がウェルビーイングを育む」という共通認識をお二人で確認しました。

今回、直接トップ同士が会うことによってコミュニケーションが深化し、新たな考えも芽生えるのではないかと予感させる一日でした。

以上